

## 高齢化が進むスモン患者に対する鍼灸マッサージの効果と施術回数について

新野 正明 (国立病院機構北海道医療センター)

千葉 修 (北海道保健福祉部健康安全局地域保健課)

藤本 純子 (中央鍼マッサージ治療室)

藤本 定義 (中央鍼マッサージ治療室)

稲垣 恵子 (公益財団法人北海道スモン基金)

### 研究要旨

スモン患者の中でも特に重症患者では痙性麻痺による強い痛みや冷感などのスモン症状が非常に強く高齢になるにつれ悪化している。鍼灸マッサージ施術で一時的に症状を緩和することはできるが、重症患者では1～2日が緩和状態の維持には限界である。症状が緩和状態にある中で鍼灸マッサージ施術をおこなう事が現在の症状を悪化させない為に必要であると推測するが、その為には施術回数を大幅に増やすこととなる。しかし今後を見据え悪化を防ぐためにも回数増加は必要だと考える。

### A. 研究目的

重度のスモン患者の症状として夜中から明け方にかけて痙性麻痺による強い筋緊張、背部痛がよく見られる。鍼灸マッサージ施術後症状の緩和がみられるが、1～2日程経過すると筋緊張が出現する。これらの症状に加え、加齢に伴う変形性腰椎症や持病が重なり患者には身体的ストレスだけでなく精神的ストレスものしかかかっている。施術回数を増加する事で緩和状態を維持できるのか検証する。

### B. 研究方法

症例：60代女性 16歳に発症

主訴：痙性麻痺による筋緊張・背部痛、冷感などの神経障害、便秘、加齢に伴う随伴症状として変形性腰椎症、頸腕症候群、回転性眩暈

まず、過度な筋緊張、冷感に対し赤外線を2基、ドーム型温熱機、ホットパックを使用。施術中に少量の発汗も認められるが気化熱により体温低下が懸念されるが、鍼灸施術の際のアルコール消毒や肌の露出、またストーブなどの温風も寒気を訴える事から精神的な筋緊張が起こらない様に温室状態を保ち施術をおこなっ

ている。

鍼の施術部位は痙性麻痺に伴う症状には硬結部位と肩中兪、肺兪 心兪、膈兪、胞兪に刺鍼。

便秘症状には水分、天枢、大巨、石門、大腸兪、小腸兪に刺鍼。刺入深度は最大5mm程度である。灸も同様部位を中心に電気温灸器を用いて施術。これらに加え過緊張部位と疼痛部位を中心にマッサージをおこなう。

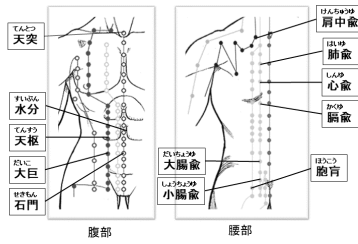
加齢に伴う随伴症状が出現してからは後頭部・頸部の硬結部位と百会、曲髻、客主人、翳風、天柱、少海、中渚、合谷に単刺で刺鍼し、灸は天突、翳風、曲髻、百会に電気温灸器を用いての施術とマッサージを追加している。

施術頻度は1時間×週3回程でおこなっていたが、加齢に伴う症状が出現してからは2時間×週5回程に施術時間・回数共に増やして施術をおこなっている。

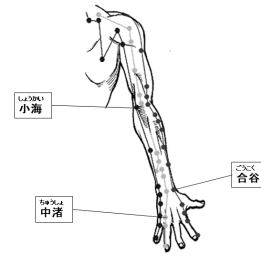
### C. 研究結果

施術をおこなった当初はスモンの主症状のみに対しての施術で1時間×週3回でも緩和状態が3日程続いている日もみられた。加齢に伴う症状が出現してから

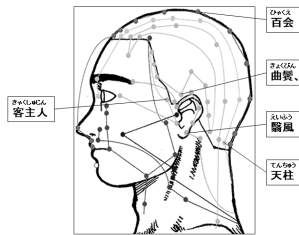
### 背腰部



### 上肢後面



### 側頭部



図

同じ頻度で続けていた期間は筋緊張が取り切れない上に緩和がみられた部位も3日は継続しなかった。その後施術時間・回数を増やして施術をおこなってからはスモンの主症状にアプローチ出来る時間が増えた為以前のように緩和がみられるようになった。しかし加齢に伴う症状が日常生活で筋緊張を助長している部分もあり痙性麻痺症状は1～2日で出現する。主症状以外の症状を抱え、施術をおこなった当初のように緩和状態が3日続いている事は難しくなったが、加齢に伴う症状が出現してからを比較すると施術時間・回数を増やした事で良い結果が検証できた。

### E. 結論

鍼灸マッサージによりスモンの主症状を一時的に緩和させることができるが加齢に伴う症状がスモンの症状を増悪させると考える。今後年齢を重ねるにつれ症状が悪化するのを防ぐには月7回までの国の施術費助成制度では足りないと思う。重度のスモン患者には早急に対策が必要である。